

平成 30 年度 第 2 回 歯科口腔保健推進検討会 議事要旨

1. 日時 平成 30 年 10 月 29 日（月）19 時から
2. 場所 センタープラザ東館 6 F スペースアルファ三宮 会議室
3. 出席者（50 音順）
足立会長、池端委員、岩崎委員、岩本委員、上原委員、片野委員、北上委員、
神原委員、定政委員、薩摩委員、杉村委員、高見委員、宅見委員、田口委員、
竹信委員、中塚委員、西尾委員、三代委員、百瀬委員、安井委員

4. 議事次第

議題

- (1) ①平成 30 年度第 1 回神戸市歯科口腔保健推進検討会
(平成 30 年 7 月 18 日) 議事要旨について
②平成 30 年度第 1 回神戸市歯科口腔保健推進懇話会
(平成 30 年 8 月 9 日) 議事要旨について
- (2) オーラルフレイル対策事業について
- (3) 地域での障害者歯科診療の取り組みについて
- (4) 歯科口腔保健推進関連会議スケジュール（予定）について

報告

- (1) 口腔がん検診について
- (2) 訪問口腔ケアについて
- (3) 神戸市母子保健事業検討委員会について
- (4) 神戸市学校歯科保健研修会について
- (5) その他、情報交換等

5. 議事

- (1) ①平成 30 年度第 1 回神戸市歯科口腔保健推進検討会（平成 30 年 7 月 18 日）議事要旨について
②平成 30 年度第 1 回神戸市歯科口腔保健推進懇話会（平成 30 年 8 月 9 日）議事要旨について

事務局：資料 3－1 「平成 30 年度第 1 回神戸市歯科口腔保健推進検討会（平成 30 年 7 月 18 日）議事要旨」および、資料 3－2 「平成 30 年度第 1 回神戸市歯科口腔保健推進懇話会（平成 30 年 8 月 9 日）議事要旨」について説明。

(2) オーラルフレイル対策事業について

事務局：資料 4－1 「神戸市オーラルフレイル対策事業」について説明。

神戸市オーラルフレイル対策事業は、最終的には、地域の歯科医院での実施を目指している。平成 30 年度は、市民へのオーラルフレイルを周知するための啓発事業と研修事業を開始した。研修としては、10 月 21 日（日）に「フレイル・オー

ラルフレイルと口腔機能低下症」と題して、足立了平教授の講話と、検査機器の体験実習として、各メーカーより機器の説明と、実際に機器を用いての体験を行った。神戸市歯科医師会会員 28 名、兵庫県歯科衛生士会会員 16 名、計 44 名の参加があった。

啓発事業としての各区歯科医師会のイベントについては、北区、東灘区、中央区、長田区を予定している。

委員：しあわせの村参加者 164 名の中で、口腔機能障害のあった方がどの程度いたのかが分かれば、歯科医院での機器整備の必要性の根拠になるのではないかと。

委員：現在、集計中である。

事務局：しあわせの村の「福祉・健康フェア」では、午前中で 100 名参加があり、興味を持ってもらった。70 歳代が多かったが、元気な方がほとんどで、舌圧測定は数値が極端に悪い方はいなかった。また「口腔内乾燥の測定機器」や「健口くん」も楽しく参加しており、慣れれば問題ないと感じた。

委員：垂水区歯科医師会の「たるみいい歯まつり」でも啓発を行った。来場者は子どもから高齢者までの幅広い参加があった。歯科衛生士会より 6 名の協力で、オーラルフレイル検査を実施した。66 名（男性：9 名、女性：57 名）の参加があり、年代では 70 歳代が一番多く 42%、60 歳代以降で 87.9%となった。

薬剤師会もフレイルチェックを行っていたが、そこで、口腔機能のチェック項目に問題があった方に対して、歯科のコーナーで保健指導を受けていただくなど、連携が取れないか、来年度施す場合は薬剤師会と協力する予定である。

会長：今年度の第 1 目的は啓発なので、たくさんの方に「オーラルフレイル」という言葉を知っていただくことが非常に重要だと思う。自立している方なので、口腔機能が極端に低下している方はほとんどいないと思う。

委員：「福祉・健康フェア」の検査内訳で、検査項目によって人数が違うのはなぜか。

事務局：舌圧測定は、材料が終了したためである。

委員：中央区歯科医師会も「いい歯の日フェア」を 11 月 12 日に実施予定である。

情報提供として、日本医師会、平成 30 年 4 月の医師会将来ビジョン委員会の答申で、「フレイル対策を考える上で、重要なテーマにオーラルフレイル対策がある。身体面のフレイル期の前段階に、栄養面のフレイルがあるとされており、歯と口腔機能の低下によるオーラルフレイル状態への対策は重要で、歯科医師会との連携が欠かせない。かかりつけ医として、オーラルフレイルの概念を啓発し、状態悪化時は速やかに歯科医師に相談できるよう、歯科医師会との連携が重要である」等と記載されている。郡市の医師会の認識はこれからと思うが、今後はそういうことにも取り組めたらと思う。

委員：神戸市三師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）の懇談会で、オーラルフレイルについて情報提供する予定なので、その際一緒に情報提供したいと思う。

委員：兵庫県歯科衛生士会は独自の啓発事業として 3 回実施予定。11 月 17 日に兵庫県看護協会の看護フェアでのオーラルフレイルチェックの実施、1 月に歯科衛生士

会 員 向 け の 研 修、2 月 24 日 に 健 康 公 開 講 座 終 了 後 に オーラルフレイルチェックの実施 を 予 定 し て い る。

会 長：色々な機会での啓発事業により、市民へ浸透していけば良いと思う。

事 務 局：資料 4-2 「フレイルチェックのデータについて」説明。

委 員：属性が北区、垂水区、西区が多いが理由があるのか。

事 務 局：人口が多いところであると思う。

会 長：男女で有為差を出していたが、男女の参加数に大きな差があり、年代での有為差を出す方が良いのでは、どのあたりからフレイルが認められてくるのかということである。

事 務 局：40 歳以上の年代別にみたリスク評価の中で、40 歳代 3.6%、50 歳代 9.9%、60 歳代 14.6%、70 歳以上 24.4%と、年齢とともに明らかに口腔機能低下者は増えている。

会 長：見た目の数値では、40 歳代に比べて、50 歳代、60 歳代、70 歳代が明らかに多くなっているのだが、統計的に有為差を出した方がよいのではないか。

事 務 局：引き続き分析していく。

(3) 地域での障害者歯科診療の取り組みについて

事 務 局：資料 5 「地域での障害者歯科診療の取り組みについて」説明。

委 員：「こうべ市歯科センター（以下センター）」では、障害者歯科医療におけるノーマライゼーションは比較的高いレベルまで達成できたと自負しているが、3 医療機関（神戸市医療センター中央市民病院・西市民病院、こうべ市歯科センター）だけでなく、地域の診療所すべてで、障害を持たれた方に対応して、歯科医療を行えるようになることが、本当の障壁の除去ではないかと思う。現実には、センターで治療から定期健診まで全て行っている事例が多い。地域での受け入れが進まない原因としては、障害者歯科医療は、設備の整ったところで専門性を持った医師が診るべきという考えが、開業医のなかにあることと、障害者医療に対する経験不足、これは歯科衛生士もそうであるが、さらに、マンパワー不足、医療経済問題など、様々な要因により、受け入れの話になった時には、センターでの受診をすすめる対応になっている。

これらをどうするかは問題で、地域の診療所に対応できるケースや、治療行為は難しくても定期健診は地域でできる方もあり、また高齢化に伴い、センターへの通院が困難で、近くの診療所での要望も出てきている。

センターの取り組みとして、診療所間連携の研修会などで、障害者医療やセンターの現状の周知、さらにセンター主催の研修会はオープンにして受講しやすくしている。様々な障害者施設職員から、地域で見てもらえる診療所を紹介してほしい要望があり、センターでの診療経験があり障害者の受け入れ可能な歯科医師の内、了解を得た診療所の名簿を渡している。ただし、聞かれれば答えるというレ

ベルである。

神戸市歯科医師会、こうべ市歯科センターとしての対応を考えた時、資料に掲載している障害者歯科学会の認定医が15名程おり、9区全体に出てきたので、この認定医が中心になって、センター診療経験者なども含め、地域での障害者受け入れ医療機関を編成したいと考えている。診療所情報を一覧にして、ホームページで公開していきたい。実際には治療ができない方も多いと思うが、必要であれば、高次医療機関と連携して診療を行っていくのが理想である。希望があれば断らない障害者歯科医療ということで、会員内で調整し、医院・診療所の情報提供をなるべく早くできればと考えている。

会 長：ホームページで公開を検討しているメンバーは、センターでの診療経験者や OB と考えてよいか。

委 員：センターOBや認定医に積極的にアプローチをして、了承を得て情報公開したい。

会 長：非常に良いアイデアだと思う。

委 員：西市民病院の日帰り全身麻酔は、個人の医師に頼っている感があるが、今後の方向性はどうか考えているのか。

事務局：西市民だけでなく、市民病院機構の3病院（中央市民、西市民、西神戸）の医師確保は非常に大事だと考えている。早急に5年間、10年間のスパンでの歯科医師確保がどうなのか、聞きたいと思っている。

委 員：3病院がそれぞれの地域でどのような基本姿勢、地域の特殊性など、特色をどう出していけるかを、これから考えていきたい。

日帰り全身麻酔に関しては、基本は医科の麻酔科医が常在している病院で、外来での全身麻酔に対しては、病院内では是非を問われる時代になってきた。今後どういう体制で実施するのかは、考え直す時期が来るかと思う。

委 員：「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）」にもあるように、神戸市における障害者歯科診療は、西市民病院とこうべ市歯科センターが中心となっているので、外来での全身麻酔体制の維持は非常に重要と思う。昨今、病院歯科の役割が様変わりし、在宅の後送医療機関や、周術期の口腔機能管理にかかわる役割など、ニーズが変わってきている。外来での全身麻酔は非常に難しい問題であるが、市民病院機構の3病院も入った「こうべ市歯科センター障害者歯科診療関係者懇談会」で、検討をする予定である。

会 長：自分は昭和56年3月に中央市民病院に、歯科麻酔を外来で担当するという事で赴任したが、実際には12月に初めて全身麻酔をし、麻酔科の理解も得何とか続いている。麻酔科の医師との密接な関係は、今は非常に難しくなっている。

病院歯科医会の会長としては、企業努力で障害者を診ていくという方針を持った病院があっても良いと思う。

阪神・淡路大震災で、水木通りの障害者歯科診療所は崩壊したため、歯が痛くなった時にどこを受診したかというアンケートを障害者を対象に実施したら、「近所で受診した」が半数ぐらいで、残りは「受診しなかった」、その内の何%かは「セ

ンター以外で診て貰えると思わなかった」という結果であった。地域でも診られるような体制作りが必要と思う。

委員：灘区歯科医師会では「障害者治療」という理事をつくり、センターに出務している歯科医師が担当して、灘の障害者支援センターの所長等と話をした。また、車椅子の対応に困っているとのことで、地区のケアマップに車椅子対応可能な歯科医院を書いている旨の説明をした。歯科センターへの受診の前に、相談のために数件の歯科医院を紹介している。治療ができるかどうかも含めて、まず地域の歯科医院での対応を頑張っている。

(4) 歯科口腔保健推進関連会議スケジュール（予定）について

事務局：資料6「歯科口腔保健推進関連会議スケジュール（予定）」について説明。

10月から11月にかけてオーラルフレイルチェックを、垂水区を皮切りに、北区、東灘区、中央区、長田区の方で実施予定。

「11/8（いい歯の日）条例2周年ライトアップ」は、モザイクの大観覧車のイルミネーションで、11月8日の日没から消灯まで、「11月8日はいい歯の日。かかりつけ歯科医で受診を。」という文字がLEDで流れる。

検討会、懇話会を年度内に、1回づつ予定しているので、よろしくお願ひしたい。

委員：11月8日のモザイク観覧車のライトアップについて、周知はしているのか。

事務局：モザイクのライトアップの周知は早急に実施する。

6. 報告

(1) 口腔がん検診について（神戸市歯科医師会提供）

委員：資料7「口腔がん検診について」報告

平成30年度9月末現在で、380名診察、要精検11名

非常に多くの受診希望があり、当初は要望に答えられなかったが、落ち着いた時に、9月号広報紙KOBEに、少し大きめの広告掲載をしたら、再び反響があった。

来年度はシステム、従事者について、再考していく予定である。

平成31年2月23日に歯科医師向けの研修を予定している。

委員：要精検が胃がんなどの5大がんでは、大体1,000人あたり2～3人ぐらいの率である。口腔がんにおける異常率は高いように思うが、これは目に見える場所なので、自分で気になるところがあって受診される方が多いためである。ただし、今のところは良性の腫瘍のみで、神戸大学や中央市民病院に紹介し治療している。

委員：市民の関心が高いので、長田区歯科医師会ではベルスコープを購入して、今後各診療所で実施する際に、口腔粘膜診査の補助装置として、使用方法についての研修会を実施した。ベルスコープは会で購入し、貸し出しを考えているが、個別検診を実施する際には、各自で購入してもらおう。今後も研修会を重ねていきたい。

会長：口腔がんにしても、障害者にしても、口腔機能の低下者は、基本的には各診療所で診られるようにして欲しいという思いがある。

(2) 訪問口腔ケアについて（神戸市歯科医師会提供）

委員：資料8「訪問口腔ケアについて」報告

平成30年度4月から9月累計で、訪問実施実人数93名（受付人数49名）、訪問延回数245回区によるばらつきがあるが、10月から須磨区でも件数が上がったので、徐々に各区による空白がなくなり増加していく状況である。啓発用のチラシはリニューアルを予定しており、Q&A方式の分かりやすい内容でつくりたい。訪問口腔ケア事業の周知・説明を、あんしんすこやかセンター連絡会などで実施予定である。

研修会は今年度2回目を来年3月10日（日）に藤田保健衛生大学の看護師長を招いて「摂食・嚥下障害の対応」として、実習付きの研修会を予定している。

会長：あんしんすこやかセンターでの周知・説明の対象はどういう方か。

事務局：あんしんすこやかセンターに勤務する、保健師、社会福祉士、主任ケアマネのうち、区によって集まる職種は違う。地域の高齢者の相談窓口として対応する方に、しっかり説明するため、全区を回る予定である。

委員：3月の研修会について説明して欲しい。

事務局：医療・介護推進財団の企画・主催で多職種連携の研修会で、テーマは「口腔ケア」となっている。基調講演を足立教授にお願いし、対象はST、歯科衛生士、在宅訪問看護師など、色々な職種からの活動報告をしてもらう予定で、歯科衛生士会の岩崎副会長にもご出席いただく予定である。

日時は平成31年3月17日（日）午前中。

場所は新神戸ANAクラウンプラザ。

委員：各区あんしんすこやかセンター連絡会での説明については、各区歯科医師会に連絡はしているのか。区歯科医師会の同席は必要か。

事務局：あんしんすこやかセンターでの説明は、日程調整がギリギリになったためと、会の開催時間が昼間のため、こちらの方での対応を考えている。

事務局：区歯科医師会においては、色々ご協力を頂いているが、連絡・調整が遅いことがある。昨年度から保健所の組織として、各区に保健センターを設置しており、センター長は、中央区のみ医師で、その他は保健師となっている。保健センター長にも歯科に関連する情報を提供し、共有していくので、今後ともご協力をお願いしたい。

(3) 神戸市母子保健事業検討委員会について

事務局：資料9「神戸市母子保健事業検討委員会について」説明

この度、手引書と帳票の内容を改訂するため、外部委員として、神戸市医師会、眼科医会、耳鼻科医会、歯科医師会から集まって頂き検討を進めている。

健診事業の見直しとして、発達障害へのアプローチや視力検査のあり方、また、低フォスファターゼ症の乳歯早期脱落や口腔機能不全症の疑いについても課題と

認識している。今後のスケジュールとしては、平成 32 年 4 月から新しい帳票、手引きの導入を考えている。

委員：市歯科医師会の常務会・理事会、地域保健委員会だけでなく、外部の専門家のご協力も頂き、検討していきたい。

事務局：神戸市の乳幼児健診の健診票は OCR 読み取りのマークシート方式となっているので、システム改修等の関係で、問診項目の改訂は手間がかかる。妥当な質問項目・回答を提案してほしい。

委員：1 歳 6 か月児、3 歳児の健診項目を増やすのは難しいか。

事務局：不必要な項目との置き換えがメインになる。

委員：9 か月児健診で歯科医の参加は出来ないか。歯がはえ始めるので、非常に有効だ。

事務局：9 か月児健診は、医療機関における個別検診なので難しい。

会長：オーラルフレイルのダイナミックな流れの中に、スタートが口腔への無関心で最終的には嚥下障害にまで進んでしまうことがある。口腔リテラシーを子どもときから進めることで、将来的にオーラルフレイルの防止につながると思う。1 歳 6 か月、3 歳児において保護者の関心を高めること、学校での健康教育において、こども自身の口腔へのリテラシーを高めることは、非常に重要と思うので、しっかりかかわる必要がある。

(4) 神戸市学校歯科保健研修会について

事務局：資料 10「平成 30 年度神戸市学校歯科保健研修会の実施報告」について説明

10 月 11 日に、歯科医師会と教育委員会の共催で「う蝕は完全に予防できるか？」をテーマに実施。171 名参加の内、養護教諭が 143 名参加。

アンケートの結果は、92%が「歯科保健についての理解が深まった」と答えた。また、自由記載では、「フッ化物の重要性は理解できたが、学校現場での実施難しいのかなあ」というような意見があった。

委員：研修会では、フッ化物洗口について、一番高いエビデンスが出ているにもかかわらず、「フッ素は不要ではないか」等の質問があったので、フッ化物の応用を進めていく上では問題になると思う。

また、学校は避難所にもなるので、今後そのような観点からも、洗口場の整備は必要ではないか。

事務局：フッ化物の件は、理解の問題で、今回、十分重要性を理解できた方もいるので、今後も研修等を継続的にやりたい。

今後、保健福祉局とも連携をとりながら、検討していきたい。

(5) その他、情報提供等

委員：11 月 11 日に兵庫勤労市民センターにおいて、日本歯科医師会と日本技工士会主催で、厚生労働省の委託事業として、感染予防講習会を開催する。東京歯科大学の奥田先生により、感染症の歴史についてのお話と、日赤 OB の大西先生により、清潔領域と不潔領域のところで、技工室から感染物質、感染因子を持ち込まない、

持ち出さないという基本理念のところの講演を予定している。

委員：兵庫県歯科衛生士会では、高校生に向けたパンフレットを作成中である。「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）」のP27の課題にあるように、壮年期に向う前の、中学・高校生に対する口腔に対する意識をつけることが大切である。クイズ形式で、100点満点で何点とれるか、またデータ処理して、学校別・スポーツ実施別・男女別などの分析を考えている。データの分析後報告する。今年、モデル事業として、神戸市内2か所の高校での実施を考えている。また、来年度はDVDを作成して、兵庫県下の高校に出向き、歯科健康教育の実施を考えている。

委員：歯科技工業界は、深刻な後継者問題に直面している。厚生労働省による「歯科技工士の養成と確保に関する検討会」が立ち上がり、年度内に答申が出る予定である。県下に養成機関がなく、ここ10年位は、34,500人ぐらい（全国）で推移している。顔の見えない職業なので、歯科技工士という職業の認識が低下している。歯科技工士は一人前になるのに、8～10年かかるが、卒後5年以内の離職は75%に上り本当に深刻である。

今後、色々なイベントにおいて、歯科技工士が口腔内に入れる補綴物を作成していることを、市民に紹介してもらえ環境づくりを先生方をお願いしたい。

会長：日本歯科医師会が、今度制作した映画は、歯科技工士が主役なので、なり手が増えたらよいと思う。

事務局：来年度に向けて、相談していきたい。

閉会（保健所長あいさつ）